

INDOSPEED RACE SERIES 2013 - Putaran 2

参戦報告書

Race #1 決勝4位

Race #2 決勝5位

- ゼッケン/エントリー名 : #21/ JBR-M Synergy Force TRICKSTAR
- ライダー : 佐藤 周
- 監督 : 鶴田 竜二
- 開催日 : 5月11日(土)~12日(日)
- サーキット : Sentul Int'l Circuit /インドネシア
- マシン : カワサキZX-6R
- 結果 : 5月11日(土)RACE#1 決勝4位
5月12日(日)RACE#2 決勝5位

第1戦ではマシンがレース本番までに間に合わず、現地で調達したマシンで参戦となったが、今戦からは、シーズン前より準備を進めていたレースマシンにて参戦となる。

5月10日(金曜日)レース前のテスト走行を行った。今年から新たなフレームに変え昨年最終戦と同じセッティングにて走行を開始したがコーナリング時にマシン挙動が安定しないという症状が現れ、思ったようにタイムが上がらない。ピットインを繰り返しセッティングを詰めるも、なかなか改善されない。そこで、新たなフロントフォークに交換しテストを行う事とした。まずまずの感触を掴み、タイムも表彰台に絡めるレベルまで来た。

しかし、この後 他車が路面上に撒いてしまったオイルで、スリップし転倒してしまう。ライダー佐藤選手に怪我はなく、翌日の予選のため、マシン修復に全力を注いだ。



5月11日(土) 予選 Weather Condition: Sunny

むかえた予選、前日の転倒の影響が無いかったが、朝のフリー走行では問題はなさそうだった。

そのままのマシンセットで予選に挑むこととなった。コースイン後、タイムを出し終えてピットに戻って来るが、なかなか良いタイムが出ない佐藤選手。4周終わったところでピットインし、マシンの前回りが跳ねてしまい思うように攻められない事を告げてきた。

直ぐにセッティングを変えコースに出るも、その症状が改善することができなかった。結局1分33秒6というタイムしか出せず、5番手で予選終了。



5月11日(土) 決勝Race1 Weather Condition: Cloudy

予選と同日に行われる決勝Race1。

時間がない中でチームは原因を探り改善できるよう取り組み、スタートをむかえた。

5番グリッドからのスタート。

スタートが切られオープニングラップを5位で通過。2周目以降トップグループ3台からやや離されてしまう。その後もペースが上がらず、さらに順位を6位に落としてしまう。

その後 4周目5位に順位を上げるが 激しい5位争いとなるが 佐藤選手はペースが上げられず、苦しい展開となる。そんな中 4位を走行する選手にマシントラブルが出たため順位をひとつ上げる。遂に最終ラップ突入、佐藤選手は必死に押さえ込み 4位でチェッカーを受けた。

5月12日(日) 決勝Race2 Weather Condition: Sunny

決勝Race2。

スタート前には曇り空から小雨が降り出してきた。 Race1同様5番グリッドについた。

佐藤選手はまずまずのスタートを切り、オープニングラップ5番手で通過。

前を走る選手と激しく4番手争いをするも、前日からのコーナリング時のフロント周りの挙動が解消出来ておらず、思うようにペースが上がらない佐藤選手。

途中小雨がやみ、路面はドライコンディションとなった。

本来であればトップグループをリード出来る佐藤選手であるが、やはりマシンの挙動が不安定であり攻めきれずにレースが進んで行く。

3番手とは差が開いてしまうも、3台で激しい4位争いとなる。

レース中盤、6位まで順位を落としてしまうも、抜きつ抜かれつ の激しいバトルを繰り広げた。

前を走る選手がマシントラブルによりリタイアとなり5番手になる。

その後も激しい4位争いは続けられ、佐藤選手は5位でチェッカーを受けた。

【ライダー 佐藤周】

前回のレースで使用する事が出来なかった日本からの車両での今回のレース。2日間のテスト走行を予定していましたが1日しか走行が出来なくなり、マシンチェックとセットアップ、車検と短時間でこなさなければならない状況でした。それにも関わらず、タイムもそこそこ上がって来た矢先に、他車の撒いたオイルに乗り転倒してしまいました。チームスタッフの迅速な修復により車検は間に合いましたが、貴重な走行時間を無くしてしまいました。

不慮の転倒とはいえチームに申し訳なく、また大変感謝しています。予選は、1・2週の計測で最低でもフロントローに着きたいと思って臨みましたが、フロントの跳ねが酷く、時間一杯使ってアタックとセットアップをしましたが、タイムも上がらず不本意な5番手とタイヤを消耗させてしまう結果になってしまいました。

レース1では スタートはまずまずでしたが、序盤からフロントの跳ねが酷く、ペースを上げる事が出来ませんでした。中盤から終盤にかけて、3台の先頭集団に大きく離され4台での4位争いとなり、毎周順位が入れ替わる激しいバトルでしたが、なんとか4位でチェッカーを受ける事が出来ました。レース2ではスタートからレース1と同じ状況で先頭集団3台が離れ、4台で4位争いをする展開。跳ねの問題を解決出来ないままなので、ここでもペースを上げる事が出来ませんでした。中盤終盤と4台での4位争いの中、1台が遅れ始め3台での激しいバトルとなりました。抜いても抜いても接触を繰り返しながらの危険なバトルになっていたため、後方で様子を伺っていましたが、最終ラップで前のライダーがハイサイドを起こし、避けるために減速してしまい、4番手走行をしていたライダーに離されてしまい5位でチェッカー。無理が出来る状況ではなかったのですが、集団後方にひいてしまっていた僕の判断ミスです。転倒、ノーポイントという最低な結果は回避出来ましたが、情けない結果になり、スポンサー様、チーム、応援して下さいの皆様、大変申し訳ありません。残り3戦。チャンピオン獲得に向け精一杯頑張りますので、応援宜しくお願い致します。



【監督 鶴田竜二 コメント】

前回のレースはマシンが届かず、ウィーク時に調達したマシンで出場した経緯から、今回は万全のマシンに近い状態でレースをむかえるはずでした。

しかし、前日の練習走行でコース上に撒かれてしまったオイルにのり 転倒を起こしてしまった。マシンのバランスがズレてしまい、そこから流れを引き寄せる事が出来なかった様に思います。車検後の予選でいきなり不調となった為、対応に苦しみました。

表彰台にも乗れないという結果にとっても残念でした。

シーズンを通して『今回のレースが最悪なレース結果だった』と言えるようにするためにも、レース翌日サーキットに残り、原因を探るべくテストを行いました。

ここで 今回の不安を解消する事ができましたので、次回からはきっちりと勝ちにいきたいと思います。我々チームにご支援を頂いているスポンサー様、そして応援を頂いているファンの皆様、いつもありがとうございます。

今後もチャンピオンシップを目指し頑張っていきますので、引き続き応援のほどよろしくお願い致します。